

相模原市域の関東大震災関連石造物について

山本 菜摘・河尻 清和

はじめに

1923年関東地震（以下、関東地震と呼ぶ）は、1923年（大正12年）9月1日に発生し、東京都および神奈川県に甚大な被害を及ぼした（宇佐美, 1996; 国立天文台, 2024）。神奈川県内では川崎から小田原にかけての県南部での被害が大きく（神奈川県, 1982）、相模原市内では神奈川県南部に比べ被害は大きくなかったものの、死者34名、家屋全壊165戸に及び、その他多くの建物が倒壊し、土砂災害が発生している（相模原市, 1971; 相模原市, 2015）。

自然災害を伝えるための有効な手段の一つに記念碑や慰霊碑などがあり（以下、災害碑と呼ぶ）、これまでに種々の自然災害に関連した災害碑について、多くの報告がある（例えば、伊藤, 2009; 北原ほか, 2012; 齋藤,

2022）。また、国土地理院は、「過去に発生した津波、洪水、火山災害、土砂災害等の自然災害に係る事柄（災害の様相や被害の状況など）が記載されている石碑やモニュメント」として自然災害伝承碑（国土地理院, [online:denshouhi.html](https://online.denshouhi.html)）を2019年（令和元年）6月19日より「地理院地図」で公開している。さらに、これらの災害碑の防災上の意義や、実際に災害碑を防災教育に活用した例も報告されている（例えば、首藤, 2001; 井若ほか, 2011; 小山ほか, 2017）。

関東地震に係わる記念碑や慰霊碑などは神奈川県各地に残されており（例えば、武村ほか, 2014）、市内にも、関東地震に関連した石碑がいくつか残されている。筆者らは関東地震が発生して100年にあたる2023年（令和5年）に向け、2022年（令和4年）から1年ほどかけて、



図1 相模原市内の関東大震災関連石造物の分布

表 1 相模原市内の関東大震災関係石造物

石碑No.	名称	所在地	経度	緯度	年代	備考
1	「慰霊塔」	相模原市緑区千木良286-2	139.218408	35.612964	昭和14年	昭和12年の水難者との合同の慰霊塔
2	「大震災歿死諸精霊」碑	相模原市緑区鳥屋281-1地震峠	139.229474	35.555200	大正12年	
3	地藏尊	相模原市緑区鳥屋281-1地震峠	139.229474	35.555200	不明	
4	「中村喜作家慰霊」碑	相模原市緑区鳥屋281-1地震峠	139.229474	35.555200	大正12年	
5	「震災記念 嗚呼九月一日」碑	相模原市中央区水郷田名1-8-28田名八幡宮	139.327952	35.546286	大正12年	
6	「大震災記念植樹」碑	相模原市中央区矢部2-7-15村富神社	139.381130	35.573448	大正12年	
7	「大震災記念植樹」碑	相模原市中央区淵野辺本町1-36-16日枝神社	139.400745	35.575467	大正12年	
8	「大震災記念」碑	相模原市中央区共和1-11-18新田稻荷神社	139.401154	35.565196	大正12年	
9	「大震災記念植樹」碑	相模原市中央区淵野辺本町4-20-11皇武神社	139.407779	35.568856	大正12年	
10	「崖崩復興記念」碑	相模原市南区下溝2376十二天神社	139.379528	35.542550	大正14年	
11	「宮坂改修記念」碑	相模原市南区下溝2632十二天神社向かい	139.379128	35.542554	大正14年	
12	鳥居	相模原市南区磯部951磯部御嶽神社	139.382533	35.504665	大正13年	
13	「大震災記念植樹」碑	相模原市南区古淵1-34-23鹿島神社	139.422335	35.558818	大正12年	記念樹・記念石柱ともに見当たらず
14	「大震災記念植樹」碑	相模原市南区古淵3-21-2相模原市立大野小学校敷地内	139.422547	35.551772	大正15年	
15	「震災記念樹」碑	相模原市南区東大沼3-26-23稻荷社	139.416393	35.540132	大正12年	
16	「鹿島神社再建記念碑」	相模原市南区上鶴間本町3-7-11鹿島神社	139.444266	35.539013	大正12年	
17	「震災記念樹」碑	相模原市南区上鶴間本町3-7-11鹿島神社	139.444266	35.539013	昭和3年	
18	「震災記念樹」碑	相模原市南区上鶴間本町9-17-32長島神社	139.454149	35.526089	大正12年	

相模原市および周辺地域の関東地震・丹沢地震に係る石碑などの石造物について現状を確認するために、現地調査を実施した。本報告では相模原市内の関東地震に関連した石造物について報告する。

調査結果

相模原市内に残されている関東地震の石造物については、岡本（1989）、相模原市（2009, 2010）および武村ほか（2014）を参照するとともに、地元住民の方からいただいた情報をもとに現地調査を行った。現地調査では石造物の現状、大きさ、石材および周辺の状況などを確認した。15ヶ所 18 基の石造物について、相模原市内を概ね西から東へ、石造物 1 基につき一つの番号を順番に割り振った。図1に調査地点を、石造物の一覧を表1に示す。

①「慰霊塔」（図2、写真1、2）

所在地 相模原市緑区千木良 286 - 2

大きさ 107、70、11 cm

年代 昭和14（1939）年

石材 不明

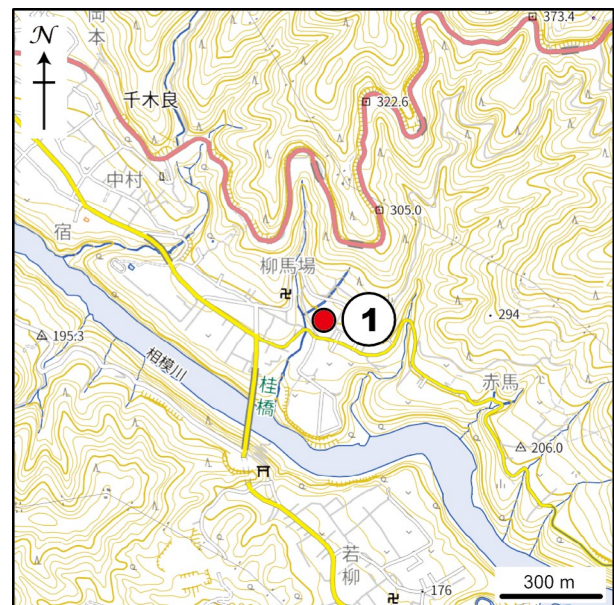


図2 相模原市緑区千木良

備考 1937年（昭和12年）年7月16日の水災避難者との合同の慰霊塔である。

背面にはそれぞれの被災者の名前が刻まれている。

千木良の関東地震での被害については、津久井郡役所の「震災当時日誌」に「山林崩潰、圧死六名負傷二名、内一名発見、家屋全潰四戸」と記録が残されている（城山町，1993；藤野町，1994；相模原市，2015）。また、当時、小原町外二カ町村組合助役であった千木良村の小谷荻三郎の記録『還暦記念六十年史』には、居宅二棟蚕室が埋没し、一家の主の娘と長男の嫁とその子供二人の四人が死亡し、千木良村ではこの外、二名が犠牲になったことが書かれている。慰霊塔には、この亡くなられた6名の名前がある（相模湖町史編さん委員会，2001）。

また、『相模湖町史歴史編』には「千木良村の岸岩吉家の家族救助作業は九月一日から二日にかけておこなわれた。在郷軍人会からは四〇人、千木良村の消防団・青年団は一日から二日にかけて参加した。小原町の消防団・青年団は九月一日でそれぞれ二〇人と一一人が作業に協力した。」と救援活動についての記載もある（相模湖町史編さん委員会、2001）。

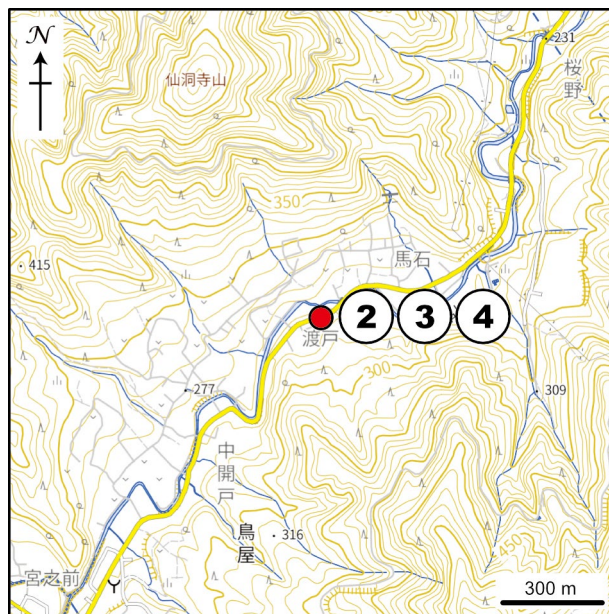


図3 相模原市緑区鳥屋



写真1 ①「慰靈塔」正面 2023年7月撮影



写真3 ②～④地震峠碑 2022年12月撮影



写真2 ①「慰靈塔」背面一部 2023年7月撮影

②「大震歿死諸精靈」碑（図3、写真3、4）

所在地 相模原市緑区鳥屋 281 - 1 地震峠

大きさ 80、53、12 cm

年 代 大正 12 (1923) 年

石 材 火山礫凝灰岩（七沢石か）

③地藏尊 (図3、写真3、5)

所在地 相模原市緑区鳥屋 281 - 1 地震峠

大きさ 106、40、36 cm

年代不明

石 材 花崗岩

④「中村喜作家慰霊」碑（図3、写真3、6、7）

所在地 相模原市緑区鳥屋 281 - 1 地震峠

大きさ 77、32、21 cm

年代 大正 12（1923）年

石材 火山礫凝灰岩（七沢石）

備考 相模原市緑区鳥屋の土砂災害発生場所付近は地震峠と呼ばれ、斜面崩壊による土砂のため 16 の方が犠牲になり、また、付近を流れる串川を堰き止めた（相模原市，2015）。崩落土砂に含まれる岩塊から判断して、新第三系丹沢層群の火山碎屑岩からなる山腹斜面が崩壊したと考えられる。令和 3 年度に国土地理院の「自然災害伝承碑」に登録された。

③の地藏尊以外は施主や被災者の名前の記載がある。また 2022 年（令和 4 年）に自然災害伝承碑「地震峠」を守る会により案内板が設置されている。



写真4 ②「大霊殃死諸精霊」碑 2023年8月撮影



写真6 ④「中村喜作家慰霊」碑 正面 2022年8月撮影



写真5 ③地藏尊 2022年12月撮影



写真7 ④「中村喜作家慰霊」碑 側面 2022年8月撮影



図4 相模原市中央区水郷田名

⑤「震災記念 嗚呼九月一日」碑（図4、写真8、9）

所在地 相模原市中央区水郷田名1-8-28 田名八幡宮

大きさ 117、44、11 cm

年代 大正12（1923）年

石材 粘板岩（稲井石）

備考 この地域での大きな被害は、岸の上にあった料亭が崖下に落ちたことである。死者は出なかった。

本石碑の建立理由は不明であるが、石碑のある田名八幡宮では、関東大震災当日、祭礼であった。そのため後の証言集でも、この祭礼に絡めた記述が多い（麻溝地区老人クラブ連合会、1982など）。もともとこの地域では、二百十日と氏神の祭礼が重なるため、9月1日は物日（遊び日）とされ、農作業は午前中で仕舞いにし、昼湯に入り、昼蕎麦を食べたりして祝う習慣がある。緑区橋本にある神明大神宮なども、当日は祭礼であったが、碑などは残されていない。しかし関東大震災を機に、祭礼の日程を変更しており（加藤重夫、1985）、田名八幡宮とは違った形でその爪痕が残されている。田名八幡宮では、現在でも日を変えず、9月1日に祭礼が行われている。



写真8 ⑤「震災記念 嗚呼九月一日」碑 正面 2023年5月撮影



写真9 ⑤「震災記念 嗚呼九月一日」碑 背面一部 2023年5月撮影

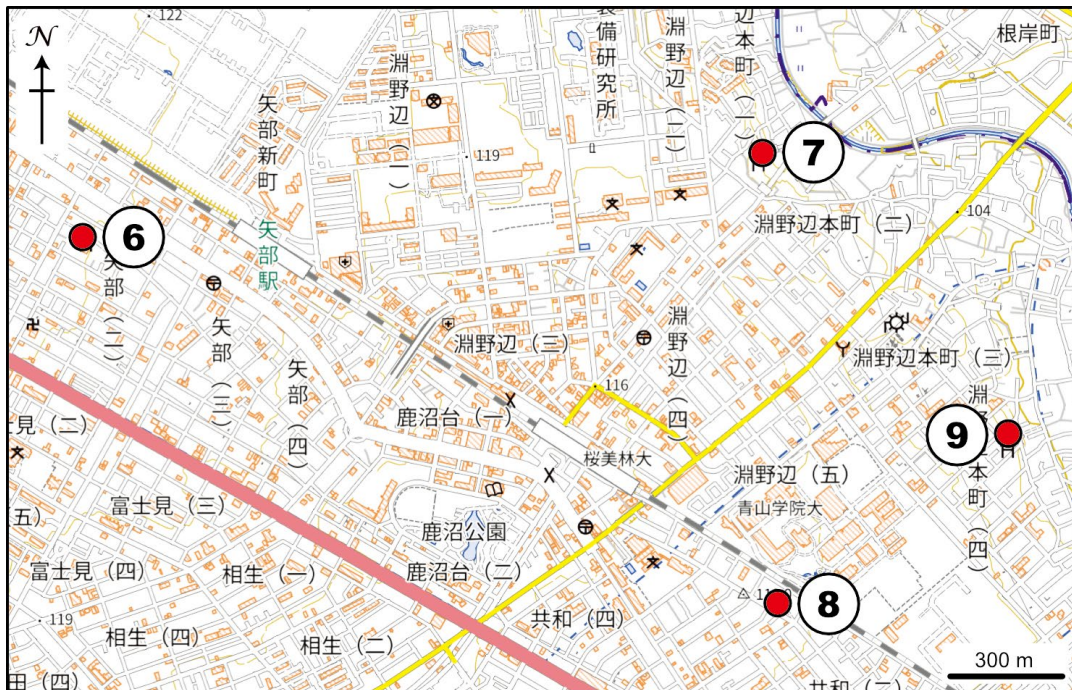


図5 相模原市中央区矢部・淵野辺本町・共和

⑥「大震災記念植樹」碑 (図5、写真10、11)

所在地 相模原市中央区矢部2-7-15 村富神社

大きさ 157、45、45 cm

年代 大正12(1923)年

石材 粘板岩(稲井石)



写真10 ⑥「大震災記念植樹」碑 正面 2023年3月撮影

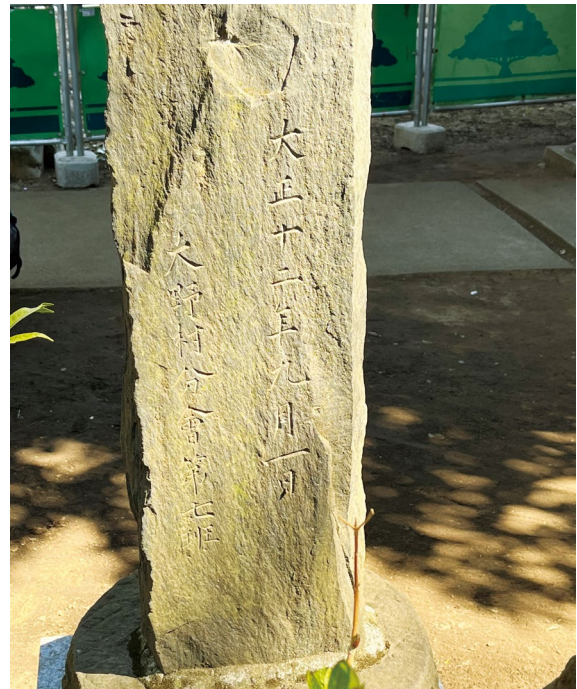


写真11 ⑥「大震災記念植樹」碑 背面一部 2023年3月撮影

⑦「大震災記念植樹」碑（図5、写真12、13、14）

所在地 相模原市中央区淵野辺本町1-36-16 日枝神社

大きさ 120、34、12 cm

年代 大正12（1923）年

石材 粘板岩（稲井石）



写真12 ⑦「大震災記念植樹」碑 正面 2023年5月撮影



写真13 ⑦「大震災記念植樹」碑 背面一部 2023年5月撮影

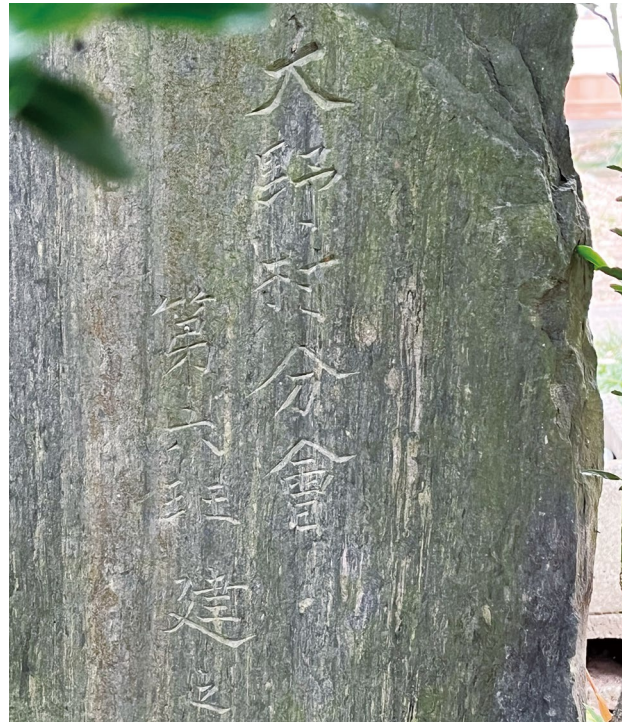


写真14 ⑦「大震災記念植樹」碑 背面一部 2023年5月撮影

⑧「大震災記念」碑（図5、写真15）

所在地 相模原市中央区共和1-11-18 新田稲荷神社

大きさ 93、20、16 cm

年代 大正12（1923）年

石材 花崗岩



写真15 ⑧「大震災記念」碑 2023年5月撮影

⑨「大震災記念植樹」碑（図5、写真16）

所在地 相模原市中央区淵野辺本町4-20-11 皇武神社

大きさ 117、18、18 cm

年代 大正12（1923）年

石材 花崗岩



写真16 ⑨「大震災記念植樹」碑 2023年5月撮影

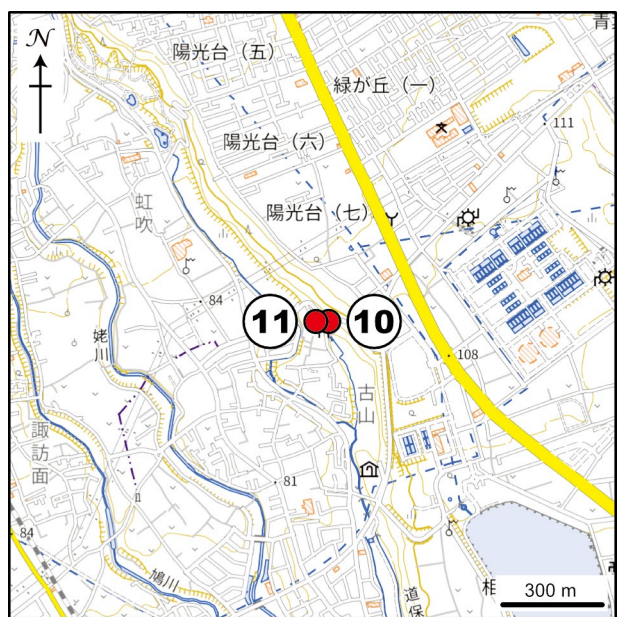


図6 相模原市南区下溝

⑩「崖崩復興記念」碑（図6、写真17、18）

所在地 相模原市南区下溝2376 十二天神社

大きさ 103、56、8 cm

年代 大正14（1925）年

石材 粘板岩（稲井石）

備考 相模原市南区下溝の土砂災害発生場所は宮坂と呼ばれ、十二天神に立つ石碑によると、地震により坂道が土砂崩落のため通行できなくなったとのことである。この十二天神は段丘崖の麓に位置し、段丘崖を構成する関東ローム層が崩落したと考えられる。

石碑には要約すると次のようなことが書かれている。「地震による土砂のため、交通が途絶した。村人一同は十二天神社で話し合い、応急の坂道を10日で開削した。翌年、農閑期を利用し、穏やかな坂（宮坂）を完成させた。震災の復興は、永遠の利便を集落に提供してくれた。」

聞き書き調査によると、宮坂は、段丘崖の上にある畑へ行くのに使用されていた。階段状に赤土を重ねたような急な坂だったので、背負い梯子専門で、荷車は通らなかった。荷車が通行したのは、近くにあった「上の大坂」である。宮坂も上の大坂も、ただ赤土のところを切っただけなので、普段から霜崩れでえぐられた状態であった。そこに大地震があったため、15メートルほど上から土が落ち、道は完全に崩れ、倒木もあり、全く通ることができなくなったという。しかし段丘崖の上の畑の夏作の収穫や冬作の播種に必要ということで、地震後すぐに坂道が開削された。そして農閑期には、荷車が通れるように傾斜が緩く、幅が広い道に改修された。なお、宮坂が荷車の通れる坂になったので、上の大坂は崩れたまま改修されずに廃道となっている。現在の坂は、さらにその後造られたものである（相模原市教育委員会、1993；相模原市立博物館、1998）。

石碑の背面には、発起人などの名前が記されており、坂をよく利用するこの地域（古山）の人80余名が、上溝・当麻・下原の有志の援助を受けて工事がなされたことが分かる。

2021年（令和3年）に国土地理院の「自然災害伝承碑」に登録された。



写真 17 ⑩「崖崩復興記念」碑 正面 2023 年 1 月撮影



写真 18 ⑩「崖崩復興記念」碑 背面 2023 年 1 月撮影

⑪「宮坂改脩記念」碑 (図 6、写真 19、20、21)

所在地 相模原市南区下溝 2632 十二天神社向かい

大きさ 95、16、16 cm

年 代 大正 14 (1925) 年

石 材 火山礫凝灰岩 (七沢石)

備 考 道標を兼ねている。



写真 19 ⑪「宮坂改脩記念」碑 正面 2023 年 1 月撮影



写真 20 ⑪「宮坂改脩記念」碑 側面 2023 年 1 月撮影



写真 21 ⑪「宮坂改脩記念」碑 側面 2023 年 1 月撮影



写真 22 ⑫鳥居 2023 年 5 月撮影



図 7 相模原市南区磯部

⑫鳥居 (図 7、写真 22、23)

所在地 相模原市南区磯部 951 磯部御嶽神社

大きさ 未計測

年 代 大正 13 (1924) 年 (現再建)

石 材 花崗岩

備 考 鳥居は 1897 年 (明治 30 年) 年に建立されたが、関東大震災によって倒壊した。当日は御嶽神社の祭礼で、後に書かれた証言集には、「神社の鳥居がポキンポキンとあちこち欠けていくのを見ました。」など、鳥居が崩れる様子が記録されている (相模原市消防本部防災課, 1981)。翌年の 1924 年 (大正 13 年) 年に再建し、さらに 1998 年 (平成 10 年) 年に建て替えられた。



写真 23 ⑫鳥居 一部 2023 年 5 月撮影

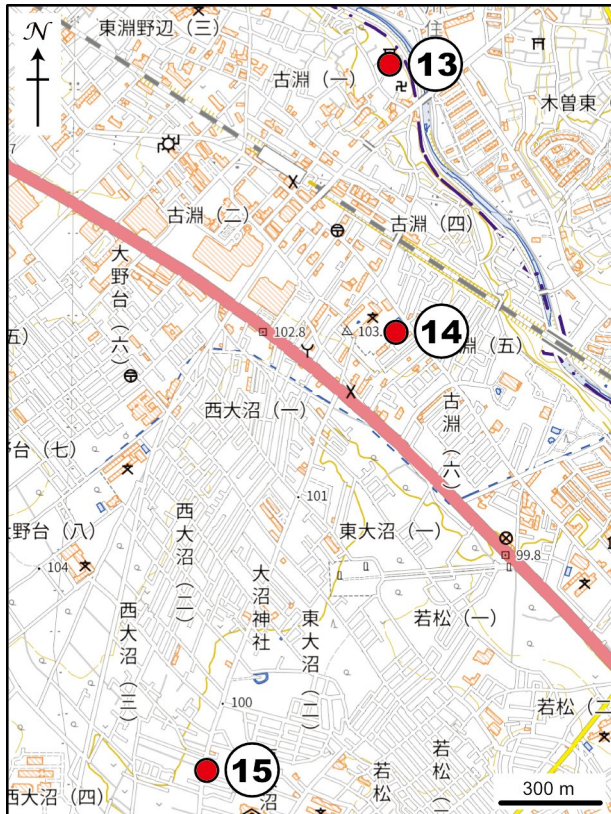


図8 相模原市南区古淵・東大沼

⑬「大震災記念植樹」碑 (図8)

所在地 相模原市南区古淵1-34-23 鹿島神社

大きさ 110、23、19 cm

年代 大正12 (1923) 年

石材 不明

備考 記念樹・記念碑ともに見当たらず。

どちらも2013年(平成25年)年には確認されている(竹村ほか, 2014)。「大きさ」は相模原市(2010)、「年代」は竹村ほか(2014)による。

⑭「大震災記念植樹」碑 (図8、写真24)

所在地 相模原市南区古淵3-21-2 相模原市立大野小学校敷地内

大きさ 106、28、22 cm

年代 大正15 (1926) 年

石材 花崗岩

備考 石碑の左側にみえる銀杏が、記念樹に該当すると思われる。大野小学校はこの地に1914年(大正3年)に建てられており、震災当時もこの場所は小学校であった。「震災記念植樹」の碑が神社の境内にあるのが多い中で、珍しい事例である。



写真24 ⑭「大震災記念植樹」碑と銀杏 2023年5月撮影

⑮「震災記念樹」碑 (図8、写真25、26、27)

所在地 相模原市南区東大沼3-26-23 稲荷社

大きさ 75、19、13 cm

年代 大正12 (1923) 年

石材 花崗岩

備考 境内にある2本の銀杏のうち、碑の脇にある1本が記念樹とされている(武村ほか, 2014)。



写真25 ⑮「震災記念樹」碑と銀杏 2023年2月撮影



写真 26 ⑮「震災記念樹」碑 背面 2023 年 2 月撮影

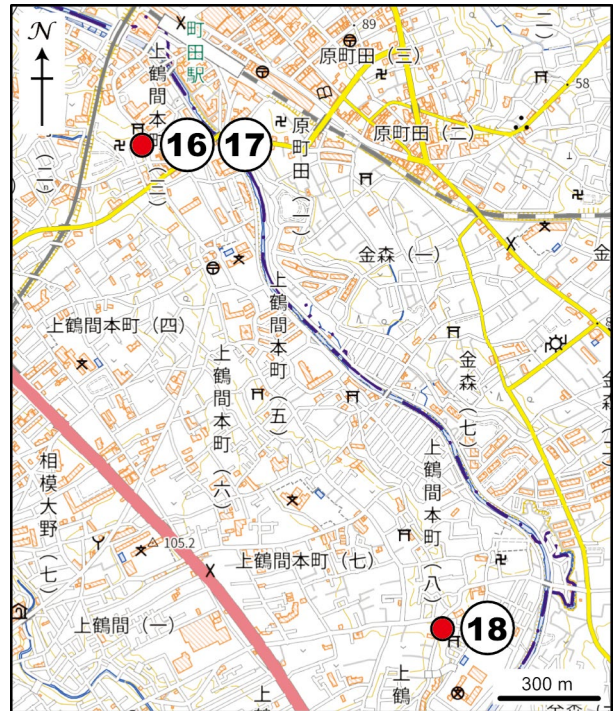


図 9 相模原市南区上鶴間本町



写真 27 ⑮「震災記念樹」碑 稲荷社 2023 年 2 月撮影

⑯「大震災記念樹」碑 (図 9、写真 28、29、30)

所在地 相模原市南区上鶴間本町 3 - 7 - 11 鹿島神社

大きさ 71、20、16cm

年 代 大正 12 (1923) 年

石 材 斑レイ岩

備考 正面には「大正十二年 大震災記念樹 銀杏二本」とあり、おそらく石段を挟んだ 2 本の銀杏がそれと思われる (写真 30)。背面は、植栽によって写真では下半分しか撮影できなかったが、「帝国在郷軍人会 大野村分會第二班」と書かれている。



写真 28 ⑯「大震災記念樹」碑と銀杏 2023 年 7 月撮影



写真 29 ⑯「大震災記念樹」碑 背面一部 2023 年 7 月撮影



写真 31 ⑰「鹿島神社再建記念碑」正面 2023 年 7 月撮影



写真 30 ⑯「大震災記念樹」碑、⑰「鹿島神社再建記念碑」
鹿島神社 2023 年 7 月撮影

⑰「鹿島神社再建記念碑」(図 9、写真 30、31、32)

所在地 相模原市南区上鶴間本町 3 - 7 - 11 鹿島神社

大きさ 240、99、14cm

年 代 昭和 3 (1928) 年

石 材 粘板岩 (稲井石)



写真 32 ⑰「鹿島神社再建記念碑」背面 2023 年 7 月撮影

⑬「震災記念樹」碑（図9、写真33）

所在地 相模原市南区上鶴間本町9-17-32 長島神社

大きさ 100、28、13 cm

年代 大正12（1923）年

石材 花崗岩



写真33 ⑬「震災記念樹」碑 2023年7月撮影

まとめ

相模原市内の関東地震に係わる石造物のうち、地理院地図上で自然災害伝承碑とされているものは、相模原市緑区鳥屋と相模原市南区下溝に建立されたもののみであり、どちらも土砂災害が発生した場所である。そのほかの相模原市内の関東地震に関連した石造物のほとんどは、震災記念植樹碑であった。これらは、直接、災害の状況を伝えるものではなく、「関東大震災記念植樹」などの文字や日付、建立者の名前が刻まれているだけである。また、災害のあった場所に建立されたものでもない。これらの震災記念樹碑の建立理由について、武村（2017）は、「植樹は氏神様に感謝の意を表すためによく行われていたが、周辺は関東大震災で比較的被害が軽微であり神様のおかげであるという気持ちを震災記念として表す意図もあったのではないか」との地元の方の証言を紹介している。しかし、地元の方は建立時には生まれておらず、また、

建立に関わる文書は確認されていない。相模原市内の震災記念樹碑の建立理由については、今後更なる調査が必要である。

震災記念樹碑には、植樹された樹木そのものがすでに伐採されている、立地場所が目につきにくい、および、風化により碑文の判読が困難である、などの理由で、地域住民の方に認知されていない場合もある。石碑の風化については、特に花崗岩製の石碑の文字の判読が困難になっている。碑文の判読性や認知性などの課題については、すでに、秋本・桜井（2015）や鈴木（2021）で指摘されており、さらに、秋本・桜井（2015）は、石碑に相応しい石材の選定が重要であるとしている。使用されている石材と風化による石碑の残存状況や碑文の判読性については調査がなされていない。しかし、今後新たな災害碑を建立する上で参考とするために、このような観点から災害碑の調査を進める必要がある。

相模原市内では、直接災害の状況を伝えるものや災害発生場所に建立されているものは少ない。多くのものは記念植樹の石碑であり、これらは後世の人々に災害を伝承する効果は小さいかもしれない。しかしながら、相模原市内は比較的小さかっただけで、被害は受けている。震災を記念して石碑などを建立したり、植樹した先人たちの思いを文字通り“風化”させないためにも、これらのモニュメントを後世に残す取り組みが必要であろう。

引用文献および参考文献

- 秋本悠喜・桜井慎一 2015「教訓を後世に伝承する津波碑の保存整備に関する研究」『沿岸域学会誌』28（3）
- 麻溝地区老人クラブ連合会 1982『麻溝地域を中心とした関東大震災誌』
- 伊藤豊治 2009「昭和34年（1959年）伊勢湾台風に関する石碑・慰霊碑等について」『消防防災の科学』98
- 井若和久・上月康則・山中亮一・田邊 晋・村上 仁 2011「徳島県における地震・津波碑の価値と活用について」『土木学会論文集B2（海岸工学）』67（2）
- 宇佐美龍夫 1996「4 被害地震各論」『新編日本被害地震総覧』東京大学出版会
- 岡本芳雄 1989「相模原市石造物調査報告書（4）」『郷土相模原』15
- 加藤重夫 1985『橋本の昔話』
- 神奈川県 1982「第三章 関東大震災と県民・県政」『神奈川県史 通史編5 近代・現代（2）』
- 北原糸子・卯花政孝・大邑潤三，2012「津波碑は生き続けているか－宮城県津波碑調査報告」『災害復興研究』4
- 国立天文台 2024「日本付近の主な被害地震年代表」『理科

年表 2025』丸善出版

なお、図は地理院地図を基に作成した。

小山耕平・熊原康博・藤本理志 2017「広島県内の洪水・土砂災害に関する石碑の特徴と防災上の意義」『地理科学』72 (1)

齋藤 平 2022「高知県西部の地震津波記念碑の伝承内容と方法について」『皇學館大学紀要』60

相模湖町史編さん委員会 2001『相模湖町史 歴史編』

相模原市 1971「第七編 現代の相模原, 第一章 大正時代の相模原」『相模原市史第四巻』

相模原市 2009『旧相模原地域石造物・景観調査報告書 (20年度)』

相模原市 2010『旧相模原地域石造物・景観調査報告書 (21年度)』

相模原市 2015「第七章 関東大震災と津久井地域」『津久井町史 通史編 近世・近代・現代』

相模原市教育委員会 1978『石造物調査報告書 さがみはらの文化財第13集』

相模原市教育委員会 1993『相模原市民俗調査報告書 古山の集落と土地利用』

相模原市教育委員会 2017『相模原市 近代資料編』

相模原市消防本部防災課 1981『関東大震災 40 人の体験談 そのときさがみはらは』

相模原市立博物館 1998『相模原市民俗調査報告書 古山の生業と伝承』

首藤伸夫 2001「昭和三陸津波記念碑—建立の経緯と防災上の意義—」『津波工学研究報告』18

城山町 1993『城山町史 3 資料編 近現代』

城山町 1997『城山町史 7 通史編 近現代』

鈴木比奈子 2021「過去の自然災害記録に見る災害アーカイブの展望—三陸沿岸の津波災害に関する事例を中心に—」『地学雑誌』130 (2)

武村雅之 2017「第七章 心の復興」『復興百年誌 石碑が語る関東大震災』歌詞出版会

武村雅之・都築充雄・虎谷健司 2014『神奈川県における関東大震災の慰霊碑・記念碑・遺構 (その1 県中部編)』

津久井町教育委員会 1987『津久井町郷土誌』

津久井町史編集委員会 2009『津久井町史 資料編 近代・現代』

藤野町 1994『藤野町史 資料編 下』

藤野町 1995『藤野町史 通史編』

参考 URL

国土地理院 自然災害伝承碑 <https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi.html> (2025.12.15)